

事前調査票の回答内容

	全体像のコンセプト（提案内容）	提案理由
1	「人とまち」を育む緑豊かな交流・防災拠点の創出 次世代に誇れるにぎわいのあるまちづくり（後藤委員）	青森市では、「人と環境にやさしいコンパクトシティ」を都市づくりの基本的な考え方として、都市拠点機能の充実にに向けた取り組みを進めている。 人口減少・少子高齢化の進展といった社会環境の変化に即応し、中心市街地の空洞化に歯止めかけ、賑わいのあるまちづくりの実現していくためには、民意を十分に反映した利用計画の策定が求められる。 広域交流拠点の要衝として位置付けられる青森操車場跡地については、今後、青森駅周辺地区との連携による公共交通の利便性の向上とともに、防災機能を発揮しうるような拠点形成を目指すことが望まれる。また、将来的には、東西のみならず「南北」を結ぶ自動車アクセスの動線を形成することが不可欠であろう。
2	青い森セントラルパーク全域の広い空間と緑を生かした地域交流と安心できるオープンスペース（櫻田委員）	これまで平成9年の「操車場跡地利用構想」、同11年のマスタープラン、同19年「市の緑の基本計画」、さらに21年の「市の総合交通戦略」といった考え方が一貫して示されてきました。 中期的に見て、こうした土地利用がベターだと思います。
3	市民が活用しやすい、集いたくなる場所作り（佐藤委員）	防災機能公園でありながら、普段より市民が気軽に行きやすい場所にしたい。特に、冬場は、行く場所がなく、運動不足、外出が面倒だと思ってしまう。冬が長い青森は、冬場に行ける運動・学習施設がもっとも必要である、
4	公園を中心として、市民が利用出来る美術館及び冬期間の雪寄場として使用する。（種市委員）	市内には、何ヶ所かの公園はありますが、市の中心部には市を代表するような憩いの場がない。 又、現在使用している市民美術館は公共の建造物としては不満が多い。 例．駐車場がない、耐震性の問題等
5	未来へつなく みんなの広場（福土委員）	本利用計画自体は、今回の審議のみで終るものではなく今後も中期、長期に渡って理想の利用計画を探求していくものであり、かつ都市計画全体とリンクした時間のかかる事業だということから「未来へつなく」という言葉を用いました。 また、今後公共的機能を検討していくにあたっては、単に公共施設を何にするかということではなく市民自身に公共性は自らたずさわるものであるということをも、もう少し認識してもらう必要があるということを感じて「みんなの」とか「広場（何となく公共的な空間性と公園のイメージを重ねて）」という言葉を用いました。 今よく言われている新しい公共ではないですが、経済効果と同時にそういうものがこれからは必要であり、それら総合的なもので地域力のある青森になると考えます。
6	跡地を市民生活の安全・安心と健康を守るコントロールタワー（拠点）に位置づける。（三浦委員）	答申の提出に当たっては、全体の理念を明確にさせ、内容を強調する必要があると考えます。 市長と市議会そして市民等へ説明するに当たって、答申で何を主張したいのか、そして中身をどのように分かりやすく示すかが必要と存じます。そういう意味から、強く訴えるべく「コンセプト・ワード」が、上記であります。 前回の会議でも申し上げましたが、私は本答申のキーワードは、『防災と医療』と位置づけたいと考えます。 跡地を防災拠点とし防災機能を充実させることで市民の安全と安心が確保でき、加えて（将来的にはあるが）医療体制を整備し健康面に配慮することでも安全・安心が担保できる、ということになります。 また、この計画の遂行に当たっての実施（予定）期間についても、中・長期間に渡るにしろ、ある程度明示したほうが、市民に対し大きな希望を与えることができると考えます。

事前の提案なし
菅会長、猪原副会長、小川委員、木村委員、工藤委員、須藤委員、野澤委員、森内委員